

Michael Lucken

L'Art du Japon au vingtième siècle : Pensée, formes, résistances

ミカエル・リュケン

南明日香 [訳]

20世紀の日本美術

同化と差異の軌跡



西洋から日本への

まなざし

幕末・明治初期の洋風
絵画から現代美術まで。
従来語られなかった達観
した視点での、日本美術
通覧史。

◇◇日本はかつて中国との差異を
入念に作り上げることによってそ
の古典となる文化を形成したが、
西洋に対してもまさにこれと同
様の方法が取られることになっ
た。◇◇(終章「ひとつのモチーフの展開」)

本書は、フランス国立東洋言語文
化研究所の教授として教鞭をとる
著者が、日本での資料収集・その後
の調査・講義録を基に執筆し、パリ
で出版(二〇〇一年)した「20世紀の
日本美術」の邦訳本。原書は第19回
渋沢・クロード賞を受賞(二〇〇二
年)。フランスにおける従来の日本美
術観に一石を投じた。

定価 本体2,000円+税

ISBN978-4-938740-67-2

C3070 ¥2000E



9784938740672



1923070020008



20世紀の日本美術

〔目次抄〕

序 章—西洋から日本へのまなざし

第1章—19世紀の日本と西洋の出会い

1 新技術とその反動／2 用語定義の作業

第2章—湧き立つ大正

1 最盛期／2 岸田劉生とてらり的美／3 アヴァンギャルド

第3章—大戦前夜、ひろがる危機感

1 国民美術のために／2 大衆芸術の発展／3 安定のない調和のために

第4章—大戦下の芸術家

1 国家総動員のイデオロギー／2 戦争体験

第5章—語ること、再建すること

1 ゆるやかな復興／2 復活／3 増長

第6章—開放と自閉の20世紀末

1 新しい枠組み／2 「もの派」と対象物による啓示／3 眼の氾濫

終 章—ひとつのモチーフの展開